

## 第4節 ゼロカーボンに関する主な取り組み

### 1 苫小牧市ゼロカーボンシティ宣言

平成 27（2015）年、国連気候変動枠組条約締約国会議（COP）において、気候変動対策に関する国際的な枠組みである「パリ協定」が採択されました。協定では「世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて 2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をする」という長期目標を掲げており、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）によると、地球温暖化を 1.5℃以内へ抑制するためには、令和 32（2050）年前後に CO<sub>2</sub>排出量を実質ゼロにする必要があるとされています。

これを受け、各国が野心的な温室効果ガスの削減目標を掲げていくなか、令和元（2019）年、日本においても「2050 年までに温室効果ガスの実質排出量ゼロを目指す」ことが表明されました。そして、令和 3（2020）年、本市でも 2050 年までに CO<sub>2</sub>の実質排出量ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」に挑戦することを宣言しました。

苫 小 牧 市

「2050ゼロカーボンシティ」への挑戦

近年、地球温暖化を起因とする気候変動は、世界中の人々や生態系に影響を与える深刻な問題となっており、世界各国における地球温暖化抑制に対する社会の意識や関心が高まる中で、脱炭素社会に向けた動きが活発化しています。

2015年に合意されたパリ協定では、「世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて 2 度より十分低く保つとともに、1.5 度に抑える努力を追求すること」とされ、また、2018年に公表された IPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書においては、「気温上昇を 2 度よりリスクの低い 1.5 度に抑えるためには、2050 年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

我が国では、2020 年 10 月 26 日に内閣総理大臣所信表明で 2050 年までにカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことが宣言されました。

本市においても、地球温暖化対策の一つとして、2008 年に CCS（二酸化炭素回収・貯留技術）に関する地質調査が開始され、2010 年に「苫小牧 CCS 促進協議会」を設立、2012 年に苫小牧地点での実証試験が決定し、2016 年 4 月から 2019 年 11 月にかけて CO<sub>2</sub>（二酸化炭素）圧入量 30 万 t を達成しております。また、二酸化炭素を資源として再利用するカーボンリサイクルの取り組みが、新たに開始されたところでもあります。

本市としては、これまでの経緯を踏まえ、地球温暖化対策の更なる推進に向けた決意を示し、持続可能な快適都市の実現と、豊かな自然と調和した環境を次世代の子どもたちに引き継いでいくため、市民や地域、事業者の皆さまと一体となって連携・協働しながら、2050 年までに二酸化炭素の実質排出量ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」へ挑戦することを宣言いたします。

令和 3 年（2021 年）8 月 24 日

苫小牧市長 岩倉 博文

### 2 苫小牧市第 4 次環境基本計画～第 1 期ゼロカーボン推進計画～

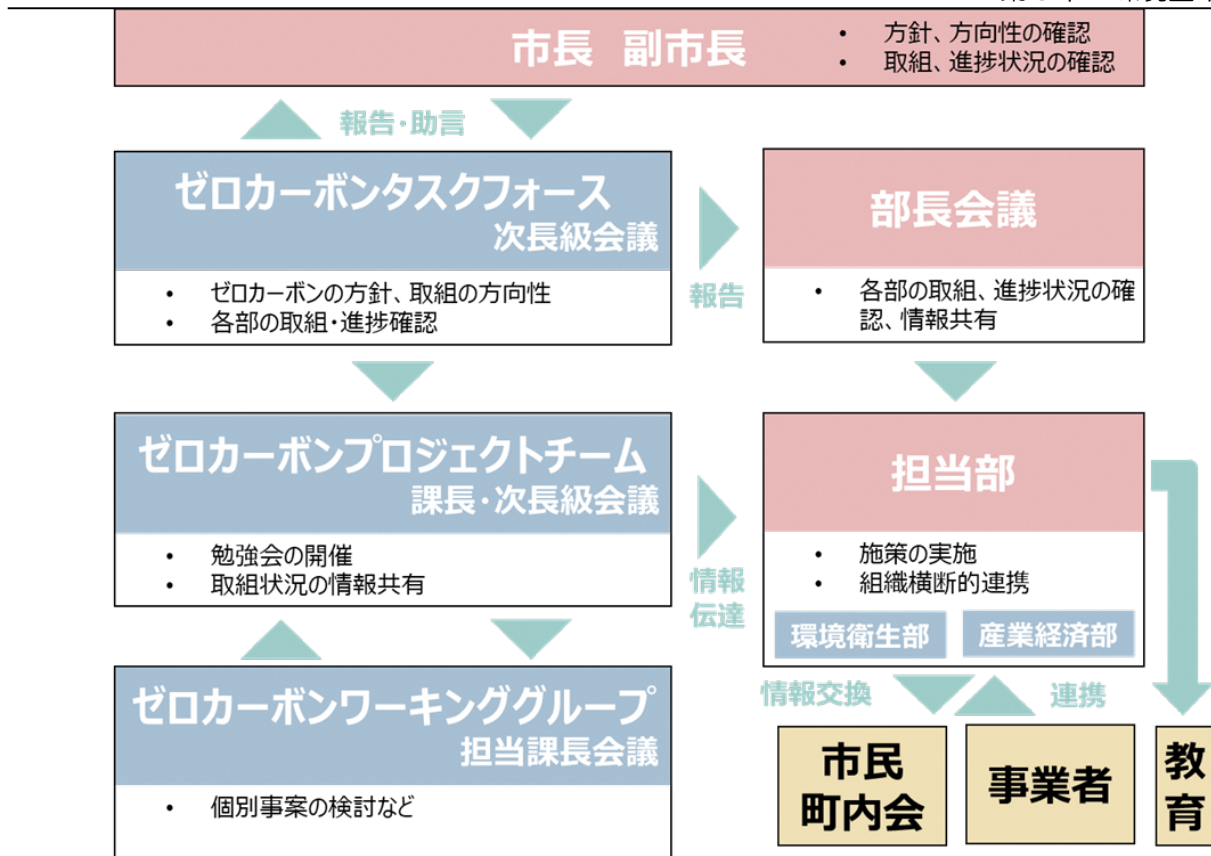
#### （1）計画の目的・目標

令和 5（2023）年 3 月、脱炭素社会への移行を計画的に進めるため、「ゼロカーボン推進計画」の内容を盛り込み、苫小牧市第 4 次環境基本計画を策定しました。計画期間は令和 5（2023）年度から令和 12（2030）年度までの 8 年間とし、CO<sub>2</sub>排出削減目標を基準年度（平成 25（2013）年度）比で 48%削減、令和 32（2050）年までに CO<sub>2</sub>実質排出量ゼロを目指します。

※詳細は第 3 章に記載

#### （2）計画の推進体制

市役所内部では、ゼロカーボンの取り組みを一丸となって推進するための体制を構築しています。次長職によるタスクフォースでは、市役所内全体の方針の協議や、情報の共有や進捗管理、各部の連携、方針の策定などを行い、各部次長及び関係課長で構成するプロジェクトチームで、全庁的な情報共有や勉強会を行っています。個別案件に関してはグループワークにおいて協議を実施するとしています。



#### ■開催実績（令和6（2024）年度）

開催日	会議名	内容
6/27	プロジェクトチーム 推進会議	・（一財）省エネルギーセンターによる省エネ講習会
8/13	タスクフォース兼 プロジェクトチーム 推進会議	・各部の取り組み状況
1/28	タスクフォース兼 プロジェクトチーム 推進会議	・各部の取り組み状況 ・脱炭素先行地域の進捗

### 3 第4期苫小牧市役所エコオフィスプラン

#### （1）計画の目的

本計画は本市の事務・事業に関して CO<sub>2</sub>排出量の削減及び吸収作用の保全並びに強化のための措置に関する計画であり、地球温暖化対策の推進に関する法律（平成10年法律第117号）第21条第1項に基づき、地方公共団体実行計画の【事務事業編】として策定しているものです。

令和5（2023）年4月、第4次環境基本計画との整合性を図り、計画期間や計画目標を含め、前計画を全面改定し、新たな計画として策定しました。

（第1期エコオフィスプラン計画期間：平成22（2010）年度～平成26（2014）年度）

（第2期エコオフィスプラン計画期間：平成27（2015）年度～令和元（2019）年度）

（第3期エコオフィスプラン計画期間：令和2（2020）年度～令和4（2024）年度）

（第4期エコオフィスプラン計画期間：令和5（2023）年度～令和12（2030）年度）

## （2）計画の目標

CO<sub>2</sub>排出源として、公共施設は「業務部門」、公用車は「運輸部門」、廃棄物処理は「廃棄物部門」に分類されます。各部門に「苫小牧市第4次環境基本計画」で定めた削減目標を適用し、基準年度（平成25（2013）年度）比で令和12（2030）年度までに「業務部門」51%、「運輸部門」35%、「廃棄物部門」25%の削減を目標とします。

### ■CO<sub>2</sub>排出量一覧（基準年度と目標年度）

（単位：t-CO<sub>2</sub>）

区分		平成25年度 （2013年度）	目標年度 令和12年度（2030年度）		
		基準年度	目標削減率	目標値	目標削減量
	市長部局	34,916	-	-	-
	教育部局	11,264	-	-	-
業務部門		46,181	△51%	22,628	△23,552
運輸部門		594	△35%	386	△208
廃棄物部門		18,878	△25%	14,159	△4,720
CO <sub>2</sub> 合計		65,652	（△43%）	（37,173）	（△28,479）

### ■CO<sub>2</sub>排出量一覧（現況年度と目標年度）

（単位：t-CO<sub>2</sub>）

区分		令和5年度 （2023年度） 現況	現況削減率 （2013年度比）	目標年度 令和12年度（2030年度）	
				目標値	目標削減量
	市長部局	27,219	△21.9%	-	-
	教育部局	10,913	△3.5%	-	-
業務部門		38,131	△18.5%	22,628	△15,503
運輸部門		517	△13.0%	386	△131
廃棄物部門		14,520	△23.1%	14,159	△361
CO <sub>2</sub> 合計		53,168	（△19.0%）	（37,173）	（△15,995）

令和5（2023）年度の市役所におけるCO<sub>2</sub>排出量は、53,168 t で、基準年度（平成25（2013）年度）と比べ約19.0%減少しました。内訳は、業務部門は約18.5%、運輸部門は約13.0%、廃棄物部門は約23.1%の減少となります。令和12（2030）年度の目標達成には全体で15,995 t の削減が必要です。

目標の達成に向けて、「公共施設へのPPAによる太陽光発電設備の導入」による再生可能エネルギーの導入、「公共施設の照明LED化」などによるエネルギー効率の高い設備の導入、「省エネ診断」などを活用した公共施設における設備運用の見直し、職員による「省エネ活動」の継続などにより、CO<sub>2</sub>排出量の削減を図ります。

### （3）グリーン購入の推進

物品などを購入する際に、品質や価格だけでなく環境への影響を考え、環境負荷ができるだけ少ない物品などを優先的に購入することをグリーン購入といいます。

平成13（2001）年4月に施行された、「国などによる環境物品などの調達の推進などに関する法律（グリーン購入法）」に基づき、本市においても平成15（2003）年1月にグリーン購入推進方針を策定し、取り組みを開始しました。

なお、取組品目数は過去数年間で購入実績がない物品や極端に少ない物品の除外、また、類似品目の統合などにより変動します。

#### ■グリーン購入実績

年度 区分		R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)
取組品目数		24	24	24	24	24
取 組 分 野	紙 類	91.1%	75.9%	85.0%	97.4%	95.9%
	文 具 類	99.7%	99.7%	99.1%	98.5%	95.0%
	電 池	100%	100%	100%	99.8%	99.8%
グリーン購入率(%)		91.5%	91.3%	88.6%	98.0%	96.0%

※ R3（2021）年度から紙類の集計単位を「1枚」から「1㍻」へ変更



#### (4) 公共工事環境配慮

グリーン購入の中で特に環境に与える影響が大きい公共工事の分野に関しては、グリーン購入推進方針とは別に、平成 15（2003）年 3 月に公共工事環境配慮指針を策定し、取り組みを行っています。

##### ■ 公共工事環境配慮実績

年度 区分	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)
取組項目数	29	29	29	29	29
取組実績数	19	18	17	17	16
対象工事数	165	148	147	145	131
環境配慮率（％）	91.8％	87.0％	90.2％	96.2％	92.4％

#### (5) 公共施設への PPA による太陽光発電設備の導入

PPA（Power Purchase Agreement：電力販売契約）方式により、市有施設に太陽光発電設備を導入する事業を展開しています。発電事業者が市有施設に無償で設備を導入し、発電した電気を 20 年間、市が購入し使用することで、施設の CO<sub>2</sub> 排出量を削減します。

令和 5（2023）年度では 10 施設に PPA による太陽光発電設備の導入を進め、令和 6（2024）年 4 月から順次発電を開始しました。

##### ■ 導入実績（令和 6（2024）年度）

施設名	設置容量 (kW)	自家消費量 (kWh)	CO <sub>2</sub> 削減量 (t-CO <sub>2</sub> )	発電開始時期
アブロス沼ノ端スポーツセンター	189.2	131,176	69.9	令和 6 年 4 月
ウトナイ交流センター（道の駅ウトナイ湖）	55.6	49,802	26.5	令和 6 年 4 月
第 1 学校給食共同調理場	209.2	151,025	80.5	令和 6 年 4 月
第 2 学校給食共同調理場	149.4	116,797	62.3	令和 6 年 4 月
苫小牧東小・中学校	145.2	103,807	55.3	令和 6 年 4 月
啓北中学校	48.4	37,327	19.9	令和 6 年 4 月
青翔中学校	74.8	49,940	26.6	令和 6 年 4 月
消防本部防災訓練センター	110.9	58,444	31.2	令和 6 年 7 月
高丘霊葬場	104.4	17,216	9.2	令和 6 年 11 月
市役所本庁舎	271.4	25,448	13.6	令和 7 年 1 月
10 施設合計	1,358.5	740,982	395.0	

※自家消費量、CO<sub>2</sub> 削減量は令和 6 年度の実績値



▲啓北中学校の屋上に設置した太陽光パネル



▲発電量などを表示する啓発モニター

## （6）公共施設の照明 LED 化

費用対効果が高い箇所から優先的に更新するため、市有施設における照明設備の使用状況などを調査し、照明 LED 化計画を作成しました。本計画では、機器更新後に 15 年以上大規模な改修などを予定していない市有施設を対象とし、そのうち一般施設は年間 1,600 時間以上、学校施設は年 1,400 時間以上使用する照明設備のみ、機器更新することとしました。

令和 6（2024）年度では、4 施設の照明 LED 化を実施しました。

### ■更新施設（令和 6（2024）年度）

施設名	更新台数	年間 CO <sub>2</sub> 削減量 (t-CO <sub>2</sub> )	年間省エネ効果 (円/年)
明野小学校	446 台	14.49	960,218
拓勇小学校	275 台	7.98	526,844
ウトナイ小学校	248 台	5.98	393,654
緑陵中学校	281 台	8.86	588,403

## 4 地域脱炭素移行・再エネ推進交付金

地域脱炭素移行・再エネ推進交付金は、環境省の「脱炭素先行地域づくり事業」と「重点対策加速化事業」の2つの事業で構成されています。

本市は令和 5（2023）年度に「脱炭素先行地域」に選定され、令和 6（2024）年度から交付金を活用し、勇払地域限定で一般家庭向けの再エネ設備などの導入補助事業を行っています。

また、令和 4（2022）年度に、「重点対策加速化事業」に採択され、交付金を活用し、一般家庭・市内事業者向けの再エネ設備などの導入補助事業のほか、「公共施設への PPA による太陽光発電設備の導入」、「公共施設の照明 LED 化」を行っています。

### （1）脱炭素先行地域

「脱炭素先行地域」は、地域特性などに応じた先行的な脱炭素の取り組みを実行することにより、令和 12（2030）年までに民生部門（家庭部門及び業務その他部門）の電力消費に伴う CO<sub>2</sub>排出量実質ゼロの実現を目指す地域です。ダブルポートシティ苫小牧の次世代エネルギー供給拠点形成へ挑戦し、道内随一の工業都市の特徴を最大限活用するため、複数の施設に大規模な PV を設置し、産業部門の CO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減すると同時に、そこで得られる再エネ余剰電力と地域振興費を活用して、民生部門の脱炭素化と地域課題解決を図り、産業の取り組みが民生に資するモデルを構築していきます。



## (2) 市民向け補助

### ゼロカーボンハウス促進補助金

令和5年(2023)度からは「重点対策加速化事業」を活用し、重点的に太陽光発電設備(FIT売電不可)、定置用リチウムイオン蓄電池、ZEH、ZEH+の補助を行ってきましたが、令和6年(2024)度からは、これまで市費及び北海道の補助金(住まいのゼロカーボン化推進事業)を活用していたエコキュートを、他の機器と比較しても需要が高いことから、ZEH 再エネ加速化補助(国費)へ移行し補助率の引き上げや新築住宅も対象にするなど補助内容を拡充しました。また、HEMS、V2H、給電装置、定置用リチウムイオン蓄電池については、引き続き市費及び北海道の補助金を一部活用し補助を行いました。

#### ■ ZEH 再エネ加速化補助(国費)

補助対象機器	交付率	上限額
太陽光発電設備	7万円/kW	70万円
定置用リチウムイオン蓄電池	設置費用の1/3	なし
エコキュート	設置費用の1/4	18万円
ZEH	高断熱外皮、給湯・換気・空調設備にかかる経費分	55万円
ZEH+	高断熱外皮、給湯・換気・空調設備にかかる経費分	100万円

#### ■ 省エネ機器促進補助(市費)

補助対象機器	交付率	上限額
HEMS	設置費用の1/10	4万円
V2H	設置費用の1/10	6万円
給電装置	設置費用の1/10	3万円
定置用リチウムイオン蓄電池	設置費用の1/10	12万円

■補助実績

(単位：件)

機種 年度	太陽光 発電	蓄電池	ZEH	ZEH+	エコ キュー	エコ ジョーズ	エコ フィール	HEMS	コレモ	V2H	給電 装置	計
H21 (2009)	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
H22 (2010)	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
H23 (2011)	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
H24 (2012)	101	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	101
H25 (2013)	148	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	148
H26 (2014)	110	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	110
H27 (2015)	51	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	51
H28 (2016)	31	-	-	-	64	179	51	-	-	-	-	325
H29 (2017)	34	-	-	-	69	163	83	-	-	-	-	349
H30 (2018)	35	-	-	-	74	182	70	-	-	-	-	361
R1 (2019)	19	5	-	-	29	50	50	6	-	-	-	159
R2 (2020)	14	8	-	-	37	43	64	7	2	0	-	175
R3 (2021)	16	21	-	-	31	22	32	5	6	0	-	133
R4 (2022)	40	26	-	-	98	-	-	7	-	0	9	180
R5 (2023)	44※	59※	1※	6※	128	-	-	13	-	0	3	254
R6 (2024)	108※	119※	0※	2※	68	-	-	6	-	0	0	303
計	786	238	1	8	598	639	350	44	8	0	12	2,684

※ 地域脱炭素移行・再エネ推進交付金（重点対策加速化事業）を活用

勇払限定ゼロカーボンハウス促進補助金

令和6年（2024）度から「脱炭素先行地域づくり事業」を活用し、勇払地域の住民に対して太陽光発電設備、定置用リチウムイオン蓄電池、HEMS、エコキュートの補助を行いました。

■補助内容

補助対象機器	補助額
ZEH+	最大100万円（千円未満切り捨て） （高断熱外皮、給湯設備、空調設備、換気設備に係る合計額）
太陽光発電設備	設置費用の2/3以内 （千円未満切り捨て）
定置用リチウムイオン蓄電池	
HEMS	
エコキュート	

■ 補助実績

(単位：件)

年度 \ 機種	ZEH+	太陽光 発電	蓄電池	HEMS	エコキュート	計
R6 (2024)	0	9	6	0	4	19
合計	0	9	6	0	4	19

### (3) 事業者向け補助

#### 苫小牧市ゼロカーボン推進事業（再エネ設備導入補助）

市内企業のゼロカーボンに係る取組支援及び再生可能エネルギーの普及促進を行うため、CO<sub>2</sub>排出量削減に資する設備を導入する事業者に対して補助を行っています。補助メニューのうち、重点対策加速化事業を利用しているのは、再生可能エネルギーの導入に係る太陽光発電設備と蓄電池の導入補助です。令和5（2023）年度は2事業所から申請があり、太陽光発電設備と蓄電池をそれぞれ導入し、年間26t-CO<sub>2</sub>の削減を見込むことができる設備を導入しました。

## 5 自然環境等と再エネ推進との調和に関する取組

電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法に基づき、2012年に再生可能エネルギーのFIT制度が開始されて以降、本市では太陽光を中心に再生可能エネルギー発電設備の導入が拡大しており、メガソーラーといった産業用太陽光発電（10kW以上）のポテンシャルが高く、FITの認定導入量が北海道内トップとなっています。

一方で、本市においては、これまで再エネ発電事業者による大きなトラブルはありませんでしたが、全国では再エネ発電事業者に関する地域トラブルが増えており、近年では、全国の自治体において、再エネの条例やガイドライン等の再エネ設備設置基準の制定が増加しています。

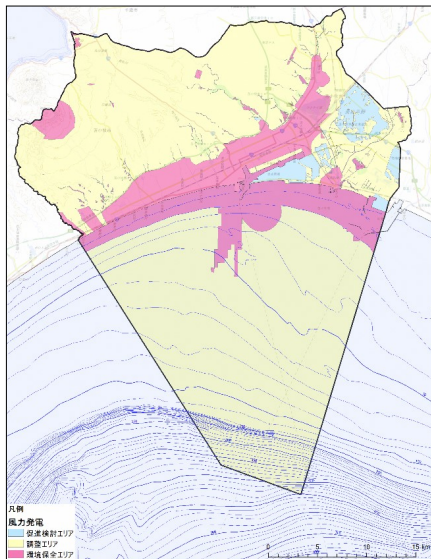
このため、本市においても、ゼロカーボンシティの実現に向けて、再生可能エネルギー発電設備の設置及び管理に関する一定のルールを作ることで、豊かな自然環境及び市民の安全で安心な生活環境の保全と地球温暖化防止対策となる再エネ発電事業推進の調和を図っていくための取組を行っています。

### (1) 苫小牧市再生可能エネルギー適正導入支援マップ

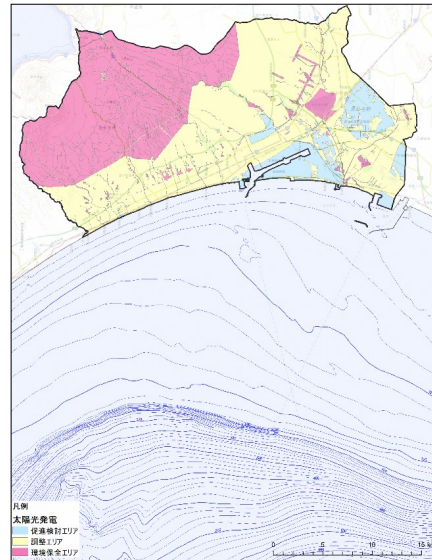
令和6（2024）年3月、本市におけるゼロカーボンシティの実現に向けて、再エネの最大限の導入促進と自然環境や生活環境の保全とが両立し、調和のとれた再エネ施設の導入を支援することを目的とした「苫小牧市再生可能エネルギー適正導入支援マップ」を策定しました。



本マップでは、法令や環境・社会面から、再エネ施設の導入に際して保全や調整が必要となるさまざまな関連情報を地図上で重ね、既存の調整事項等を可視化しており、導入を促進しうる「促進検討エリア」、導入は可能であるが調整事項のある「調整エリア」、防災・環境保全を最優先とする「環境保全エリア」を示しています。また、各情報のエリア区分とその設定根拠、情報に関する問い合わせ・関係先等を整理し、市HPに公開しています。



▲風力発電



▲太陽光発電

【 促進検討エリア 】

(導入を促進しうるエリア)

- ・ 環境・社会面からの制約が少ないエリア

【 調整エリア 】

(環境、地域社会との調和を図ることで導入が可能なエリア)

- ・ 農地や保安林などの法的に許可あるいは届出等が必要とされているエリア（環境保全エリアを除く）
- ・ 自然環境や生活環境の保全を重視しているエリア
- ・ 先行利用者、管理者等の関係者との協議、合意形成を要するエリア

【 環境保全エリア 】

(防災・環境保全を最優先とするエリア)

- ・ 法令等により立地困難、重大な環境影響が懸念されるなど、防災、環境保全を最優先とするエリア



苫小牧市再生可能エネルギー適正導入支援マップ

(市公式ホームページ)

## (2) 苫小牧市自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例

令和 7（2025）年 3 月、「苫小牧市自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例」が制定されました。本条例は、脱炭素社会の実現に向けて、本市行政区域内における再生可能エネルギー発電設備の設置及び管理に関し必要な事項を定めることにより、自然環境等の保全と再生可能エネルギー発電事業推進との調和を図ることを目的としています。なお、本条例の施行日は、令和 7（2025 年）6 月 1 日となっています。

### ■ 条例の概要

項目（条）	主な内容
目的（第 1 条）	脱炭素社会の実現に向けて、苫小牧市の行政区域内における再生可能エネルギー発電設備（以下、「発電設備」という。）の設置及び管理に関し必要な事項を定めることにより、豊かな自然環境及び市民の安全で安心な生活環境の保全と地球温暖化防止対策となる再生可能エネルギー発電事業推進の調和を図ることを目的とする。
定義（第 2 条）	各種用語の定義付けを定める。 太陽光発電施設及び風力発電施設を対象とする。
責務及び協力（第 3～6 条）	市、事業者、土地所有者の責務、市民の協力を定める。
適用事業（第 7 条）	第 8 条から第 17 条までの禁止区域や届出等の規定が適用される再生可能エネルギー事業について、建築物の屋根、屋上、壁面への設置を除く、発電出力合計 10 キロワット以上とすることを定める。
禁止区域（第 8～9 条）	事業の禁止区域として、国有地、公有地のうち、砂防法による砂防指定地などの災害関係法令、自然公園法による特別地域などの自然環境にかかわる法令や条例に定める一定の地区や区域などについて定める。
事前協議（第 10 条）	第 12 条の事業計画の届出前に、事業者は市に事前協議することを定める。
周辺関係者への説明（第 11 条）	第 12 条の事業計画の届出前に、事業者は周辺関係者に対し事業計画を説明し、理解が得られるよう努めることなどを定める。
届出等（第 12～17 条）	各種届出や維持管理状況等についての市への報告義務などを定める。
立入調査（第 18 条）	市の立ち入り調査権について定める。
指導、助言及び勧告（第 19 条）	市が事業者に対して必要な措置を講ずるよう指導又は助言を行うことができることを定める。

命令（第 20 条）	正当な理由なく勧告に従わない事業者に対し、事業の中止、又は、設備の除去や事業区域の原状回復等を命じることができることを定める。
公表（第 21 条）	第 20 条の命令をしたときには、当該事業者の氏名、住所、命令内容を公表できることを定める。

※条文については第 8 章（219 頁）を参照してください。



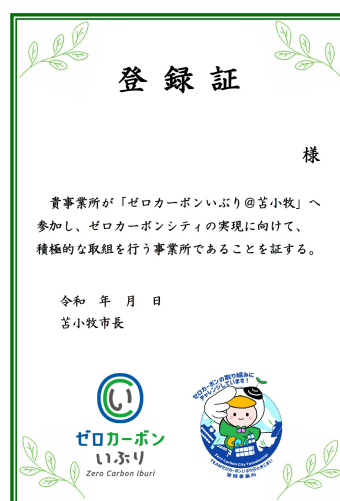
**苫小牧市自然環境等と再生可能エネルギー発電事業  
との調和に関する条例（再エネ条例）**  
(市公式ホームページ)

## 6 TEAM「ゼロカーボンいぶり@とまこまい」

TEAM「ゼロカーボンいぶり@とまこまい」では、市とともにゼロカーボンに取り組む企業・団体を募集し、“チームの一員”として官民が一体となって連携しながら、取り組みの裾野を広げています。令和6年度では新たに27事業所にご登録いただき、累計登録事業者数は43事業所となっています。

### ■TEAM「ゼロカーボンいぶり@とまこまい」 令和6年度 登録事業者（登録順）

No	事業者名	No	事業者名
1	マルトマ苫小牧卸売株式会社	15	フードテクノエンジニアリング株式会社
2	株式会社中村電気	16	株式会社レッドイーグルス北海道
3	北海道防疫燻蒸株式会社	17	北海道石灰化工株式会社
4	勝幸辰建設株式会社	18	日本 CCS 調査(株)苫小牧 CCS 実証試験センター
5	盛興建設株式会社	19	苫小牧港管理組合
6	株式会社日栄工業	20	道路建設株式会社
7	苫小牧国際コンテナターミナル株式会社	21	株式会社松本鉄工所
8	サニー事務器 株式会社	22	トヨタカローラ苫小牧株式会社
9	ミライホーム株式会社	23	アルファ計画株式会社
10	株式会社新興電気	24	苫小牧ガス株式会社
11	株式会社山口技研コンサルタント	25	岡谷岩井北海道株式会社
12	苫小牧電気工事業協同組合	26	岡谷エコ・アソート株式会社
13	王子サーモン株式会社 北海道工場	27	株式会社 Landeo 樽前事業所
14	苫小牧管工事業協同組合		



登録事業者の取り組みはこちら↑

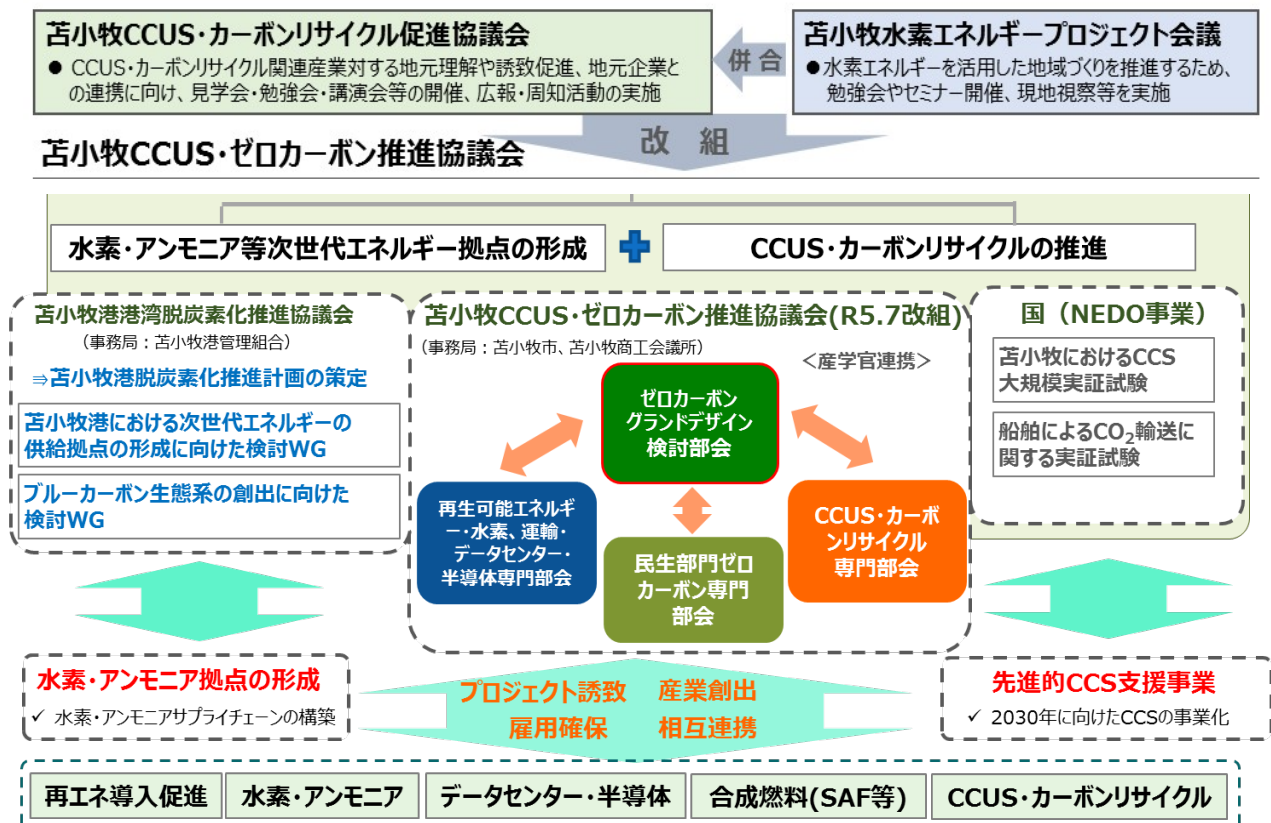
## 7 苫小牧 CCUS・ゼロカーボン推進協議会

平成 22（2010）年 4 月、CO<sub>2</sub>地中貯留技術（CCS）実証試験の苫小牧地域誘致を目指し「苫小牧 CCS 促進協議会」が発足しました。実証試験地が苫小牧地区に決定後も、現場視察会や広報とまこまいへの掲載を通じて CCS の必要性や安全性を広く周知する活動などを行ってきました。

令和元（2019）年 11 月、苫小牧 CCS 大規模実証試験における目標である、累計 30 万トンの CO<sub>2</sub>圧入が達成され、現在は圧入を停止しモニタリングが行われています。一方、国ではカーボンリサイクル事業の実施に向けた検討が行われ、これらの新たな動きを踏まえ、令和 2（2020）年 9 月に「苫小牧 CCUS・カーボンリサイクル促進協議会」へ改組しました。

令和 3（2021）年 10 月、ゼロカーボンシティへの挑戦と、地域の脱炭素化と産業振興の両立を目指し、地域一体となって取り組みを進めるため「苫小牧 CCUS・カーボンリサイクル促進協議会」と「苫小牧水素エネルギープロジェクト会議」を併合し、「苫小牧 CCUS・ゼロカーボン推進協議会」へ改組しました。また、各取り組みを集中的に協議する 3 つの専門部会を設け、具体的な案件について意見交換を行っております。

令和 5（2023）年 7 月には、ゼロカーボン産業都市の実現に向け、地域全体の取組方針、活動目標としての「グランドデザイン」の策定を目指し、新たな部会として「ゼロカーボングランドデザイン検討部会」が発足しました。本部会ではゼロカーボン実現の方策について、既存施設、資源の有効活用を図りながら、科学的、論理的、定量的に検討を行っており、令和 7 年 3 月には「グランドデザイン」の策定が完了しております。





■活動実績（令和6（2024）年度）

開催日	会議名	内容
6/26	苫小牧 CCUS・ゼロカーボン推進協議会 総会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度の事業、決算についての報告</li> <li>・令和6年度の事業計画、予算について</li> <li>・各部会の開催状況についての報告</li> </ul>
2/4	再生可能エネルギー・水素・運輸・データセンター・半導体専門部会	GX オンラインセミナー「2025 年から取り組むGX」 ① GX2040 ビジョンについて ② 令和6年度補正予算における省エネ支援パッケージについて ③ 商工会議所 CO2 チェックシートと見える化サポートのご紹介 ④ 苫小牧市ゼロカーボン支援コンサルタント事業
2/19～ 2/21	スマートエネルギーWEEK への出展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苫小牧市で行われている CCS 大規模実証試験やゼロカーボンの取り組み、苫小牧市の立地に関する環境などを PR</li> </ul>
3/8	CCS 講演会「地球温暖化と CCS」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化と氷河に住む微生物</li> <li>・我が国の CCS 政策と苫小牧</li> </ul>
3 月	機関紙の発行 HP での公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会の活動内容や苫小牧地域の脱炭素の動きなどの PR</li> </ul>
通年	パネル展や講演などの周知活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パネル展 苫小牧西港フェリーターミナル、北海道庁、トヨタカローラ苫小牧ショールーム、北海道議会</li> <li>・展示会 環境広場さっぽろ、ビジネス EXPO 札幌 ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！FINAL！</li> <li>・講演 苫小牧工業高等専門学校、室蘭工業大学、北海道大学 など</li> </ul>
通年	モニターによる情報公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市庁舎に設置したモニターで、モニタリングデータを公開し、CCS 事業の PR</li> </ul>
通年	ゼロカーボングランドデザイン検討部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼロカーボングランドデザインの策定について               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 8/19 第1回検討部会</li> <li>○ 11/18 第2回検討部会</li> <li>○ 3/24 第3回検討部会</li> </ul> </li> </ul>



## 8 寄附金

企業版ふるさと納税と指定寄附金もいただいております、令和6年度は、企業版ふるさと納税は5件、指定寄附金は1件の寄附をいただきました。

### ■「苫小牧ゼロカーボンシティプロジェクト」への寄附者（令和6（2024）年度）

寄附受領日	寄附者	寄附額	寄附種別
5/27	豊浦建設工業株式会社	500,000 円	企業版ふるさと納税
5/29	株式会社北洋銀行	100,000 円	指定寄附金
8/30	北海道パワーエンジニアリング株式会社	100,000 円	企業版ふるさと納税
11/28	株式会社ビートレーディング	非公表	企業版ふるさと納税
12/2	株式会社 STAYGOLD	100,000 円	企業版ふるさと納税
3/10	札幌トヨタ自動車株式会社	5,000,000 円	企業版ふるさと納税

## 9 環境教育副読本

地球温暖化や廃棄物などさまざまな環境問題への意識啓発として、小学4年生と中学1年生に環境教育副読本「ゼロカーボンとゼロごみのまち とまこまい」を配布しました。

令和7年度に発行する副読本からは、ペーパーレス化の取り組みや全児童生徒へタブレット端末が配布されている状況等を踏まえ、関係機関の負担軽減と児童・生徒への効率的な授業運営を目指してデジタル化しました。



## 第5節 ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！

### 1 背景

本市では、平成 19（2007）年から 5 回にわたり、ごみの減量やリサイクルの推進を図ることを目的に、「053大作戦」を実施しました。また、令和 3（2021）年には「ゼロカーボンシティへの挑戦」を宣言し、令和 32（2050）年までに CO<sub>2</sub>の排出量を実質ゼロにする取り組みを進めています。

これらの背景から、「第 4 次環境基本計画～第 1 期ゼロカーボン推進計画～」がスタートした令和 5（2023）年度から 2 か年にわたり「CO<sub>2</sub>CO<sub>2</sub>（コツコツ） いこう ♪ 次世代のために」をスローガンに「ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！」を展開しました。

### 2 目的・事業概要

「ゼロカーボンシティ」の実現には、市・事業者・市民の 3 者による協働が必要不可欠であり、省エネ・創エネをはじめ、ごみの減量やリサイクルの推進、自然環境の保全など、さまざまな観点によるアプローチが求められます。良好な地球環境を保全し、次世代の子どもたちに引き継ぐため、2 か年にわたりまちぐるみで気候変動への対策に取り組みます。

#### 【ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！ 4 つの柱】

### 1 広げよう！ゼロカーボンとみんなの暮らし

私たちの身近なところから、2050年にCO<sub>2</sub>の排出を実質ゼロにすることを目指す「ゼロカーボン」な暮らしを広げます。

<b>ゼロカーボン講演会</b>	<b>ゼロカーボン見学ツアー</b>	<b>星澤幸子のECOクッキングショー</b>
		
気象予報士のくぼてんきさんによる地球温暖化をテーマにした市民向け講演会を開催	ゼロカーボンに積極的に取り組む市内企業を見学	テレビでもおなじみの星澤幸子さんによる、省エネやフードロス削減につながるクッキングショーを開催

## 2 実現しよう！ゼロカーボン産業都市

ものづくり産業をはじめ多様な産業が集積する苫小牧市だからこそ、産業全体で「ゼロカーボン」を目指して、環境と経済の好循環を実現します。

### ゼロカーボン支援コンサルティング事業



市内企業を対象に、省エネ診断や電力料金削減可能性分析等を行ったほか、省エネセミナーを開催

### ゼロカーボン推進事業

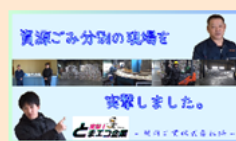
市内企業を対象に、太陽光発電設備や省エネ設備の導入費用を補助

### 突撃！とまエコ企業

ゼロカーボンに取り組んでいる市内企業を市公式YouTubeで紹介

### TEAM「ゼロカーボンいぶり@とまこまい」

市とともにゼロカーボンに取り組む市内企業・団体を募集し、官民が一体となって連携しながら、取り組みの裾野を拡大



## 3 目指そう！資源が循環する053のまち

廃棄物の適正処理、資源循環型社会の実現に向けて4Rの推進に取り組みます。

### ゼロゴミッション



### ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！祭り



JFEリサイクルプラザ苫小牧でお祭りを開催！ステージイベント、リサイクル自転車オークション、エコキャンドル作りやネイチャークラフトなどの様々な体験コーナーを実施

### 053の日

5月30日（ごみゼロの日）に合わせ、ごみ減量の啓発イベントをイオンモールで開催



## 4 守ろう！豊かな自然とみんなの未来

苫小牧は自然を身近に感じられる緑に囲まれたまちです。未来にこの素晴らしい環境を引き継ぐため、環境保全に取り組みます。

### せせらぎスクール



児童を対象に、水生生物の採取や試薬による検査を通じた川の水質調査を実施

### こころの授業



野鳥の営みや人間社会との関わり方について、ウトナイ湖野生鳥獣保護センター職員が解説

### 親子森林整備体験



間伐材による秘密基地作りや薪割り等の体験を通じて、森林整備の大切さを学習



### 3 主な市民参加型事業について（令和6年度）

#### ○ 530（ごみゼロ）の日イベント

実施日：5月30日、来場者数：500人、会場：イオンモール苫小牧

「530（ごみゼロ）」の日にちなみ、会場内では、「誰でもわかるゼロカーボン講座」や保冷剤を活用した消臭剤作り、エコドライブシミュレーターなどの体験ブースを設置し、ごみの減量や環境への負荷を減らすための取り組みなどを紹介するイベントを実施しました。



#### ○ ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！祭り

実施日：7月7日、来場者数：900人、会場：JFE リサイクルプラザ苫小牧

館内ステージでは、リサイクル自転車オークションや環境戦隊<sup>ゼロごみ</sup>053ファイブショー、ウトナイ湖野生鳥獣保護センターによる「こころの授業」などを、体験ブースではエコキャンドル作り、ネイチャークラフトなどを実施しました。

屋外ブースでは、キッチンカーや、複数のごみ処理事業者の協力のもと、ごみ分別・収集ができる体験ブースを設置しました。



## ○ ゼロカーボン講演会「気象予報士くぼてんきと考える地球温暖化

～未来へつなぐゼロカーボン～

実施日：9月15日、参加者：70人、会場：市民会館小ホール

気象予報士の「くぼてんき」さんをお招きし、楽しみながら地球温暖化やゼロカーボンを学べる講演会を開催いたしました。気象情報を根拠にした地球温暖化の原因や影響等や対策として家庭部門で身近にできる省エネ行動や再エネの利用等について、紙芝居を交えながら学んでいただきました。



## ○ ゼログミッション ～チームでゴミを撤去せよ～

実施日：9月28日、参加者：43人、会場：北洋大学エリア

チーム対抗のごみ拾い大会を13チーム43名の市民の方に参加いただき、開催しました。

1時間で合計80.2kgのごみを回収し、楽しみながら街の美化活動に取り組んでいただきました。





## ○ リサイクル自由研究所

実施日：(夏) 8月21・22日／(冬) 1月9・10日、

参加者：230人、会場：各コミュニティセンター等

小学生を対象に夏休みと冬休みに牛乳パックやトイレットペーパーの芯、ペットボトルキャップなどの廃材を利用した工作教室を開催しました。身近なごみを利用し、楽しく工作にチャレンジしてもらうことで、ごみ減量やリサイクル意識の向上を図りました。



## ○ 食材もエネルギーもムダにしない！！星澤幸子のECOクッキングショー

実施日：2月8日、参加者：220人、会場：グランドホテルニュー王子

「どさんこワイド179」「どさんこキッチン」に毎日生出演し、料理を紹介して32年、テレビでもおなじみの「<sup>ほしざわさちこ</sup>星澤幸子」先生をお招きし、省エネやフードロス削減につながる料理術を学べるクッキングショーを開催しました。





## ○ リサイクル工作コンテスト

募集期間：12月2日～2月28日、応募作品数：26点

苫小牧市内の小学生を対象に、いらなくなったら捨てられてしまうものをリサイクルした工  
作作品を募集しました。創意工夫を凝らした作品26点の応募があり、最優秀賞1点、優秀賞  
3点、環境衛生部長賞1点を選出しました。応募作品は「ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！  
FINAL!」の会場で展示しました。



## ○ ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！FINAL！

実施日：3月30日、来場者数：1,200人、会場：総合体育館

会場内ではゼロカーボンをはじめごみ問題や自然保護など、幅広い環境分野について、市民向  
けの体験ブースや先進技術の展示ブースを設置しました。会場の外ではEV（電気自動車）やFCV  
（水素自動車）などのエコカーの展示を行い、会場内の電力の一部やキッチンカーで使用する電  
力を全てエコカーから供給・給電しました。また、総合MCに本市出身のものまねタレント「あ  
いきけんた」さんをお招きしたほか、とまこまい観光大使「<sup>かどた</sup>門田しほり」さんによるコンサート  
を行いました。とまチョップをはじめとする多くのご当地キャラや環境戦隊053ファイブも登場  
しました。

会場内の展示ブース32者に、次世代自動車の展示やキッチンカーの出店では、16者にご協力  
をいただきました。



## 4 小中学校との連携事業（令和6年度）

「こどもたちが考えるゼロカーボン」をテーマに行われた「令和5年度未来創造こども会議」の中で、こどもたちから提案があった3つの取り組みを実施しました。

### ○ 市内全37小・中学校ゼロカーボン出前講座

受講者：3,841人

市内全ての小・中学校で出前講座を実施し、クイズなどを交えながら「楽しく、わかりやすく！」をモットーに地球温暖化の影響や市の取り組み、身近な省エネ行動など、ゼロカーボン全般について学んでもらいました。



### ○ CO<sub>2</sub>CO<sub>2</sub>（コツコツ）おうちで！ゼロカーボン！

対象：市内全児童・生徒 計約13,700人

夏休み・冬休み期間中に、児童・生徒が家庭に簡単にできるゼロカーボンの取り組みを実践し、合計で151t（一般家庭約30軒分の年間排出量に相当）のCO<sub>2</sub>が削減されました。



### ○ ゼロカーボンスクール チャレンジ宣言！

「出前講座」、「CO<sub>2</sub>CO<sub>2</sub>おうちで！ゼロカーボン！」で学んだことを学校生活の中に取り入れ、市内全ての小・中学校、各校が「力を入れてチャレンジするゼロカーボンの取り組み」を市宣言しました。



全校分の宣言ムービーはこちら

## 5 全実施事業について（令和6年度）

### ■広げよう！ゼロカーボンとみんなの暮らし

No	事業名	実施日	人数、作品数ほか
1	エコドライブ情報局（6月、12月）	6月、12月	55人
2	未来創造こども会議	7月	19人
3	苫小牧市こども研修事業	7月	42人
4	ゆうふつ花火大会でブース出展	7/20	200人
5	〃地域で学ぼうSDGs！夏休み1日自由研究	8/7	17人
6	ミライフストへのブース出展	9/7、8	186人
7	食べるたいせつフェスティバルへのブース出展	9/14	200人
8	ゼロカーボン講演会（くぼてんき氏）	9/15	70人
9	親子で学ぶ！創・蓄・省エネルギー工作教室	9/28、29	41人
10	勇払公民館まつりでの風呂敷講座	10/6	20人
11	消費生活展へのブース出展	10/19	131人
12	ゼロカーボン見学ツアー	10/24、25	45人
13	備えるフェスタへの出展	11/4	100人
14	ゼロカーボンポスターコンテスト	12月～2月	27作品
15	ゼロカーボンアクションコンテスト	12月～2月	1作品
16	SDGsイベント「新春ゼロカーボンまつり」	1/7	200人
17	風呂敷講座	1/11	20人
18	ECO クッキングショー（星澤幸子氏）	2/8	220人
19	親子でエコ・クッキング教室	2/15	20人
20	出前講座	通年	5,343人
21	ゼロカーボンハウス促進補助金	通年	303件

### ■実現しよう！ゼロカーボン産業都市

No	事業名	実施日	人数、作品数ほか
1	CCUS・ゼロカーボン推進協議会（ゼロカーボン講演会）	6/26	約170人
2	ゼロカーボン支援コンサルティング事業（セミナー）	7/19、8/9	107人
3	突撃！とまエコ企業！	3月公開	1件
4	ゼロカーボン支援コンサルティング事業（コンサル）	通年	25件

5	ゼロカーボン推進支援事業	通年	10件（延べ）
6	TEAM「ゼロカーボンいぶり」@とまこまい	通年	23事業者（新規登録）

■ 目指そう！資源が循環する053のまち

No	事業名	実施日	人数、作品数ほか
1	みんなで広げよう GNT の輪～Let's 苫 DAN～（ゼロカーボン Ver.）	3/30	
2	<sup>ごみゼロ</sup> 530の日イベント	5/30	500人
3	春・秋の大掃除	4月、10月	208団体 21,620人
4	不法投棄地域合同パトロール	8/19	24人、72.8kg
5	ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！祭り	7/7	900人
6	ゼロゴミッション	9/28	43人
7	リサイクル工作コンテスト	12/2～2/28	26作品
8	フードドライブ（食品の寄付回収→フードバンクへ引渡し）	1/16～17	74人
9	夏休み・冬休みリサイクル工作教室	8月、1月	230人
10	ありがとう袋の配布拡大	通年	
11	SNS などによるリサイクル情報の発信	通年	
12	資源回収の推進	通年	
13	食品ロスの削減	通年	
14	<sup>ゼロごみ</sup> 053通信の全戸配布（ごみカレンダーへ掲載）	通年	
15	<sup>ゼロごみ</sup> 053動画プロジェクト	通年	5作品
16	環境戦隊053ファイブによる周知（ゼロカーボン）	通年	
17	チャレンジ！ごみ減量（イベント配布）	通年	
18	手前どり POP の推進（小売り店連携）	通年	41店舗
19	苫小牧式のごみステーションの検討	通年	
20	ばくりっこの開催	通年	2,693人
21	プラスチック代替製品の利用促進（イベント配布）	通年	
22	生ごみ3きり運動の推進（イベント配布）	通年	
23	生ごみ堆肥化容器・電動生ごみ処理機購入、助成の普及推進	通年	
24	リサイクルハウス設置助成	通年	2件 393千円



■ 守ろう！豊かな自然とみんなの未来

No	事業名	実施日	人数、作品数ほか
1	北大研究林との協働事業（自然体験ツアー）	7/15	20 人
2	せせらぎスクール	8/1	71 人
3	親子森林整備体験～秘密基地をつくろう！～	中止	中止
4	エゾシカの有効活用（エゾシカ肉ペットフードの販売）	3/1～	
5	エゾシカ捕獲事業	通年	
6	こころの授業	通年	1,417 人
7	自然環境保全地区の保全（樽前ガローの整備）	通年	
8	生物多様性地域戦略の制定（骨子案の作成）	通年	
9	バードウォッチング	通年	253 人

## 6 総括

「CO<sub>2</sub>CO<sub>2</sub>（コツコツ）いこう♪次世代のために」をスローガンに、令和5（2024）年度と令和6（2025）年度の2か年で約130の事業を実施し、イベント等参加人数は7万人以上、コンテスト等応募作品数は200作品を超え、補助金等交付件数は600件以上となりました。

本大作戦事業は令和6年度をもちまして終了しますが、令和7年度以降につきましても、ゼロカーボン推進啓発事業としてイベントを継続し市民の意識醸成を図っていきます。